

横浜市都市計画マスタープラン 旭区プラン



平成30年11月

横浜市旭区役所・都市整備局

改定にあたって

[まちの成り立ち]

明治 22(1889)年、市町村制施行時の旭区は横浜市域に含まれておらず、都筑郡都岡村、二俣川村、西谷村（一部）で構成されていました。その頃は八王子街道沿いの農村でしたが、神中鉄道（相模鉄道の前身）開通後に市街化が進み、昭和 14(1939)年までに旭区全域が横浜市へ編入されると、昭和 30 年代に人口が急激に増加しました。昭和 44(1969)年に保土ヶ谷区から分区した旭区が誕生し、同じ頃、二俣川ニュータウン、左近山やひかりが丘などの丘陵地に大規模な戸建住宅地や集合住宅団地が相次いで建設されました。

[旭区の現状]

旭区の人口は平成 15（2003）年にピークを迎え、その後は横ばいに推移していましたが、平成 27（2015）年以降は人口減少が顕著となり、平成 47（2035）年にはピーク時の約 2 割の人口減が予測されています。また、旭区では高齢化が進行しており、高齢者数は全 18 区で一番多く、2025 年問題が喫緊の課題となっています。

旭区は帷子川の源流域となっており、帷子川とその支流により起伏の多い複雑な地形が形成されています。また、緑の 10 大拠点のうち 4 拠点が区内にあり、中心市街地とは河川によって繋がっています。かけがえのない緑と幾筋の河川に囲まれた生物多様性豊かな自然環境が旭区の特徴です。

一方で、まちづくりにおいては、二俣川駅南口の再開発や神奈川東部方面線（相鉄・JR 直通線、相鉄・東急直通線）の整備が進められ、旭区の交通利便性や魅力の向上が期待されます。また、旧上瀬谷通信施設の土地利用や鶴ヶ峰駅周辺の地下方式による連続立体交差化とそれに伴う周辺のまちづくりなど、今後も大規模なまちづくりが控えています。

[改定の経過]

旭区では平成 16(2004)年 8 月に横浜市都市計画マスタープラン旭区プラン「旭区のみちづくり」を策定し、「くらしを大切にしたいまち」を目標としてまちづくりを進めてきました。策定から 10 年以上が経過し、急速な高齢化の進行や大規模なまちづくりの進展など、旭区を取り巻く状況は大きく変化しており、現状に即した新たなまちづくり計画が求められています。併せて、平成 18(2006)年に「横浜市基本構想（長期ビジョン）」が策定され、社会経済状況の変化に合わせ「横浜市都市計画マスタープラン・全体構想」が平成 25(2013)年 3 月に改定されるなど、上位計画との整合を図る必要があります。

このような状況を踏まえ、20 年後の旭区の目指す将来像を示し、区民・事業者のみなさまと共に実現に向けて取り組めるよう、このたび旭区プランを改定しました。

※文章中のデータ等については、P.33【参考 2】を参照ください。

◆旭区の位置



目次

I 横浜市都市計画マスタープラン旭区プランとは	1
1 横浜市都市計画マスタープランとは	1
2 旭区プランとは	1
3 これまでの取組成果	3
II 旭区の将来の姿	4
1 旭区的主要な課題	4
2 旭区の目指す将来像	5
3 将来都市構造図	6
III まちづくりの方針	7
1 土地利用の方針	7
2 交通の方針	11
3 環境の方針	15
4 魅力と活力の方針	19
5 防災と防犯の方針	23
IV 旭区プランの推進	26
1 推進体制	26
2 進捗評価	31
3 見直し・拡充	31
【参考1】 評価指標(案)	32
【参考2】 関連データ集	33
【参考3】 用語の解説	54